

2011年1月25日

報道関係各位

**『猫下部尿路疾患の3大原因』と「体重」の管理に対応した特別療法食
プリスクリプション・ダイエット〈猫用〉c/d マルチケア に
「〈猫用〉c/d マルチケア ライト」が新登場！**

日本ヒルズ・コルゲート株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役：ジョイ クレメンチック、以下 日本ヒルズ）は、猫下部尿路疾患（以下、FLUTD）の3大原因に対応した特別療法食「プリスクリプション・ダイエット 〈猫用〉 c/d マルチケア」シリーズから、肥満傾向の猫のための新製品『〈猫用〉 c/d マルチケア ライト』ドライを2011年2月1日（火）より発売します。

FLUTDとは、主に下部尿路（膀胱から尿道）に起きる病気の総称で、その主な原因には、特発性膀胱炎や尿石症などがあります。特に、尿石症は、動物病院での診断数で上位に挙げられる、猫に多く見られる病気の一つです（2007年 日本ヒルズ調べ）。

ミネソタ大学で検討された疫学試験によれば、FLUTDで来院した猫の約2頭に1頭が肥満または肥満傾向であることがわかっています。また、肥満傾向の猫は、非肥満の猫に比べて、1.5倍多くFLUTDにかかっていることもわかっています。

こうした結果を受け、日本ヒルズは、FLUTDの治療と同時に体重も管理できることが重要であると考え、これらに対応した『〈猫用〉 c/d マルチケア ライト』ドライを開発しました。本製品は、FLUTDの3大原因（特発性膀胱炎、ストルバイト尿石、シュウ酸カルシウム尿石）に1つで対応できる「プリスクリプション・ダイエット 〈猫用〉 c/d マルチケア」の幅広い適応・特長はそのままに、肥満傾向の猫にも対応できるように脂肪を約34%、カロリーレベルを約15%抑えました（当社「c/d マルチケア」ドライ製品比）。さらに、高レベルのL-カルニチンを配合しているため、筋肉量を維持しながら体脂肪を管理することができます。

日本ヒルズは、これまでの長期にわたる経験と研究により確立された小動物の臨床栄養学に基づき、ペットのための優れた栄養バランスでペットの健康をサポートしてきました。

「プリスクリプション・ダイエット」は、獣医師の管理のもとに病気のペットを栄養学的にサポートすることを目的としたペットフードです。

猫がかかりやすいFLUTDを改善に導きながら、肥満傾向の猫に対応した『〈猫用〉 c/d マルチケア ライト』ドライを市場投入することにより、特別療法食市場のさらなる拡大を目指します。

■本資料に関する報道関係からのお問い合わせ■

日本ヒルズ・コルゲート株式会社
広報・法規本部 谷ノ郭（カク）
TEL：03-5683-1040 / FAX：03-5683-1029
〒135-0016 東京都江東区東陽 3-7-13

■製品のお問い合わせ■

お客様相談室
0120-211-311
日本ヒルズ・コルゲート ホームページ
<http://www.hills.co.jp/>

■製品特長

製品名	プリスクリプション・ダイエット 〈猫用〉 c/d マルチケア ライト	
製品 パッケージ		
製品特長	<ul style="list-style-type: none"> ●FLUTD の 3 大原因に、一つで対応 (特発性膀胱炎、ストルバイト尿石、シュウ酸カルシウム尿石) ●低脂肪・低カロリーで、満腹感を維持しながら「体重管理」 ●高L-カルニチン配合により、筋肉量を維持しながら体脂肪を管理 ●高い嗜好性 ●塩分控えめで長期給与に適している ●抗酸化成分を配合 (ビタミンE、ベータカロテン) 	
容量	500g	2kg

■コラム ～日本国内の猫における尿石症の実態～

FLUTD (猫下部尿路疾患) を引き起こす原因のうち、尿石症は全体の 15～23% を占め (図 1)、特発性膀胱炎に次いで 2 番目に多い原因であることがわかっています。日本ヒルズでは、尿石症の診断・治療にお役立ていただくため、無料で犬・猫の「尿石分析サービス」を行っています。

ここでは、本サービスを通じて、ミネソタ大学付属尿石センターにて定量分析を実施した猫の尿石 (570 件、21 品種) のデータから得られた傾向について、少しご紹介したいと思います。

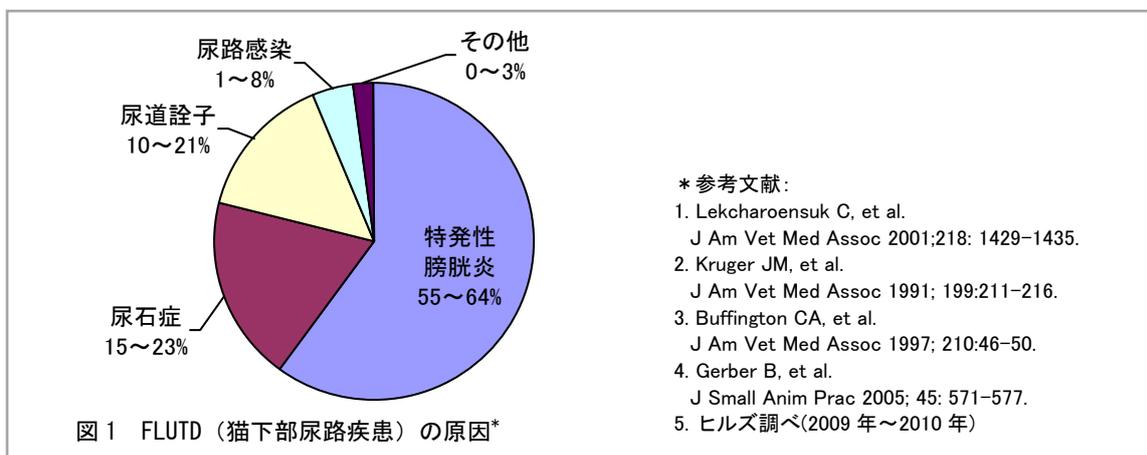


図 1 FLUTD (猫下部尿路疾患) の原因*

(調査対象期間：2009年5月～2010年7月)

日本国内の猫から得られた尿石は、およそ8割以上が2つのミネラル組成のいずれかに属しており、全体の47.0%をストルバイト（以下、MAP）が占め、37.7%をシュウ酸カルシウム（以下、CaOx）が占めていました。また、MAP、CaOxともに、オスの方が発生が多く、さらに、去勢・避妊された猫の方が発生率が高くなっていました。これは、去勢・避妊処置により、太りやすくなるということが一因として考えられます。

尿石の摘出時の平均年齢は7.8±3.8歳で、多くは成猫期に発生しています。また、先に述べた代表的な2つの尿石にもそれぞれ違った特徴があります。7歳未満の成猫に多く見られるMAPは、アルカリ性の尿にできやすく、酸性の尿の中では溶けるという性質をもっています。そのため、食事管理によって尿のpHを酸性になるように整えれば、溶解することができます。またここで注目したいのが、年齢と共にリスクが変化しているという点です。図2からもわかるように、7歳ごろから、徐々にCaOxの発生割合は増加傾向にあります。MAPとは対照的に、CaOxは、一度発生してしまうと、食事や薬をもってしても溶解するのが困難です。さらに、高齢期の猫により多く見受けられるため、除去手術等で体に負担をかけないためにも、日ごろの食事管理で未然に防ぐことが肝要となってきます。

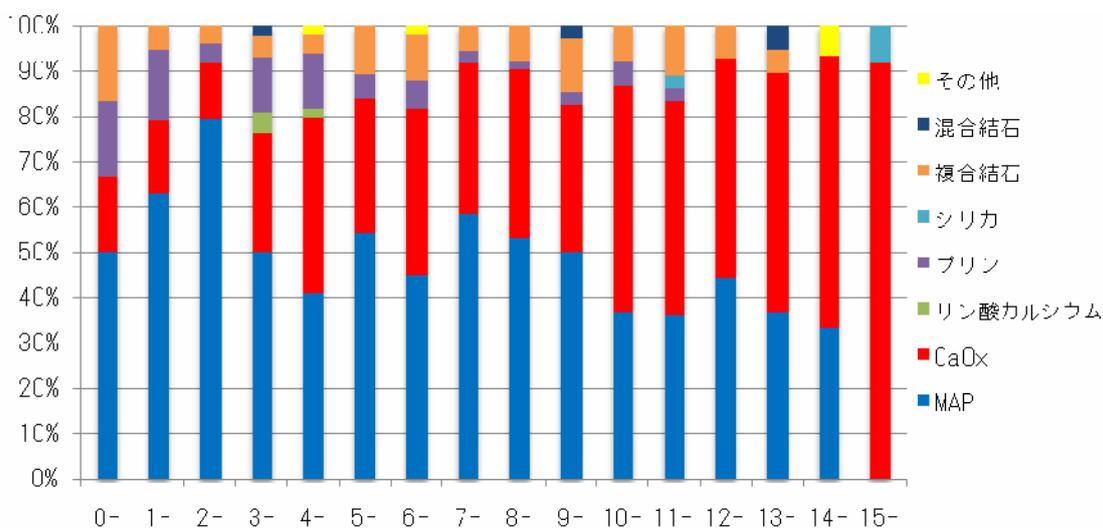


図2 各年齢におけるネコの尿石のミネラル組成別発生割合

年齢を1年ごとに区分し、それぞれの年齢における尿石のミネラル組成とその発生率を示した。

動物は、人間のように体調の変化を自分で伝えることができません。一番近くにいるペットオーナーが、愛猫の健康管理に目を向け、日ごろから食事面や生活面に気を配ってあげることが大切です。

参考文献：徳本一義（2010）「日本国内のイヌとネコの尿石症の疫学的考察」

『日本獣医腎泌尿器学会誌』Vol.3 No.1 日本獣医腎泌尿器学会